

バイコヌール宇宙基地打ち上げ見学ツアー添乗記

株式会社大陸トラベル

営業部 主事 大森 健司

雲ひとつなく風もない快晴のもと、バイコヌールのクライニイ空港に降り立った時「ついに来た！」という強い感慨を覚えた。

8年前の入社当初から、自ら企画した上で添乗をする事を夢見続けてきた「バイコヌール宇宙基地打ち上げ見学ツアー」。昔に比べれば、ロシアの情報が簡単に手に入る時代になったロシアだが、このバイコヌールに関してはネットが発達した今でも中々思うようにいかない。ツアーを企画する上で私が重視している事は、作りながら「目の前に現地の情景が浮かぶ」ことであるが、情報不足のため中々ままならず、いつしか目の前の仕事に追われ、「夢のバイコヌール」は埋もれていった。そんな中で再び「バイコヌール熱」がともされる機会がやってくる。2011年に企画・添乗をした「ロシア宇宙開発の歴史を訪ねて」で同行して頂いた、元 JAXA 的川泰宣先生とお客様として参加して頂いたTBS宇宙特派員企画当時の秋山豊寛さんのバックアップクルーであった菊地涼子さんに「背中」を押して頂き、団体ツアーとして企画が動きだした。特別な場所であることから、ツアーの企画を成功させるために、同ツアーを専門に扱っている現地パートナーを見つけることを最重視した。偶然にもロシア連邦宇宙局 (ROSCOSMOS) とも強いコネクションを持ち、「打ち上げツアー」の催行経験も豊富な旅行会社を見つけることができ企画及び今回のツアーの成功の大きな要因ともなった。ツアー価格は高額の部類に入るもので、ある程度的人数が集まった形での、団体でのツアーができるかどうか懸念されたが、「価格」以上に同ツアーに対し「熱い思い」を抱いて頂いた11名のお客様の申し込みを受けることができた。手配の点では、バイコヌール自体が閉鎖都市であり、また同宇宙基地自体もセキュリティの厳しい場所であることから、現地の情報収集に手間取ったり、2ヶ月前にツアー参加者のデータを ROSCOSMOS へ提出し許可を受ける必要がある事などの制約に苦慮した。また、モスクワ発バイコヌール行きのチャーター機の日時及び離発着空港の確定が直前にしか決まらないことがあったりと流動的な要素が多い中での手探りの手配となったが出発前までは無事まとめることができた。

今回のツアーは往復ともモスクワ経由で、NASAのチャーター機でモスクワ発、バイコヌール入りすることになったが、同チャーター機にはNASA、JAXAの関係者をはじめ、日本の報道関係者の方達との同乗となった。JAXA関係者の中には、古川飛行士、星出飛行士、金井飛行士もおら



れ、日本では中々一緒にする機会などは持てない方々とご一緒できるという幸運にも恵まれた。(その後、JAXA関係者と方々とは宿泊場所も同じでご挨拶をさせて頂く機会にも恵まれた。) 11/4 (月)、モスクワから飛行時間2時間半程でバイコヌールに到着。バイコヌールはカザフスタン領内にあるロシアの租借地であるため、バイコヌールに入るためには、一瞬ではあるのだが、カザフスタン領内、すなわち到着時の空港と街の間を通過することになる。このため、今回、ロシアビザしかもたない私達の一行(JAXAやNASA



関係者も同様だが)は、空港と街の間での移動の際の下車は原則許可がされず、且つ車列での団体での移動となる。これは、バイコヌール市内から宇宙基地内へ往復する際も同様で、「カザフ領内にある閉鎖都市(基地)」へ入ることの厳しさを実感した。バイコヌールは見渡す限りの空と砂漠の土地で、そこに1955年に作られた都

市。人口は7万人程で主に宇宙機関に従事する人とその家族及びそれにまつわる公共機関に従事する人が暮らしている。私達一行が滞在したスプートニクホテルは街の北部の宇宙基地寄りに位置し、そのホテルの裏手の一面には打ち上げ前の宇宙飛行士が滞在するホテル(以前はコスモノートホテルが利用されていたが、現在は同テリトリー内にあるコテージ風のホテルに滞在している)がある。



11/5 (火) バイコヌール滞在2日目。いよいよ本格的なツアーのスタートでこの日はソユーズロケットが射点に向かう様子を見学するために、まだ夜が明けきらない7時半に市内ホテルを出発。かなりの猛スピードで、宇宙基地職員の通勤用バスを何回も追い越しながら、基地内の見学にポイントへ向かう。約30分程で到着。朝8時、朝焼けの中の発射台がなんとも言えず美しい。その発射台に向かい、ディーゼル機関車に運ばれながらS o c h iオリンピックバージョンのペインティングがされたソユーズロケットが目の前を運ばれていく様子をゆっくりと見学することができた。次の見学場所に移るべく、バスに戻ったところ、バスが一向に動かない。なんだが嫌な予感がしてきたが、案の定ここでトラブル…。この後予定されていた、発射台の見学及びソユーズロケットの組立工場の見学が ROSCOSMOS 長官の命令で

突然の中止となった。オリンピックトーチをISSに運ぶという特別ミッションのため普段より警備を厳戒にしている、新任の長官のためより事を運ぶのに慎重になっている等々



様々な憶測が流れたが、真相ははっきりせず。私達、旅行者だけでなく、JAXA、NASA、日本の報道関係者もすべて立ち入り禁止となった(例外として若田飛行士の親族及び数名のNASA関係者が許されたとのことだった)。ツアーのコンセプトとして打ち上げまでのプロセスを見せたいという思いがよかったので、この中止は大変痛かったが、事情をよく説明した上で御客様にはなんとか納得して頂いた。

(正直、私自信がかなり楽しみにしていたので本当に残念だった。約 2 km先の遠方の発射台に屹立していくソユーズを見ながら「やはり近くで見たかった…」と思うのであります。) 午後は気を取り直し、バイコヌールの市内観光。宇宙基地の街ということもあり、他のロシア都市では見ることのできない、ソユーズロケットをはじめとした様々な、さまざまな宇宙関係のモニュメントを見学。(大陸間弾道弾がモニュメントになっている都市などはこの街ならではある。) 様々なモニュメントをはじめ、カザフスタン色の強い中央市場を見学の後、国際宇宙学校へ。この学



校、航空宇宙工学や物理・数学等に力をいれていて、将来、宇宙産業に携わる人材を育てる事を主な目的とした学校とのことだけあって、校内には本物のロケット関係の部品の数々、宇宙服、宇宙船の帰還モジュールが展示されており、博物館と違って「触ってもOK」だったので、これはある意味博物館以上に楽しいところであった。



11/6 (水) バイコヌール滞在3日目。この日は午前中、出発前の宇宙飛行士による共同記者会見を見学する予定。場所は滞在ホテルの裏手の一面にあるコスモノートホテル。警備は厳重でテリトリー内には目出し帽を被り、銃を構えた警備の人達が至る所に配地され物ものしい。記者会見見学の前に、同テリトリー内にあり、ソユーズに初めて搭乗する宇宙飛行士が記念植樹をする並木を見学。ガガーリン、テレシコワ、歴代の宇宙飛行士に混ざって、TBSの秋山さん、JAXAの古川さん、そして今回の若田さんの植樹場所をチェック。それと、今回のツアーにモスクワから別枠で参加された、**Klementina** さん(ロシア人宇宙飛行士のセルゲイ・アヴディエフさん娘さん)のお父さんの植樹場所もチェック。晴天



の空の下、11月の日中には10℃と暖かい中、近くに流れるシルダリア川の向こうには地平線を挟んで空と大地が果てしなく広がっている。並木を散策後、共同記者会見場へ。既に日本をはじめ各国のプレスが陣取っている間をすりぬける用にしてお客様各自で場所を確保して頂き見学。（オリンピックのトーチをISSに運ぶというイベントがあるので普段よりロシア側のプレスが多かったこと。）プレスの会見場に一般の旅行客が紛れて見学するなんてことは他ではあまりできない経験。若田さんまでの距離も10メートル程度と近い。若田さんのロシア語・英語・日本語を交えた的確な応答に何かすごい余裕というかりラックスした様子を感じた。



午後、市内でバイコヌール歴史宇宙基地博物館を見学。市内のカルチャーセンターの一角が博物館として整備されている。

町の歴史＝宇宙基地の歴史なので、宇宙関係の歴史が大半の展示で、JAXA関係の展示物、日本の宇宙基地に関する展示などもあり興味深かった。

11/7（木）、バイコヌール滞在4日目。いよいよ打ち上げの日。この日は打ち上げの6時間前、朝の4時にコスモノートホテルから出発する若田さんの見送りからスタート。日本から持参した横断幕を菊地さんにお手伝い頂きながら、若田さんの目にとまるように高く掲げる。（若田さんにも目を止めて頂いたと思うが、それより周りの報道陣の方からかなり写真を撮られる。横断幕の写真はロイター伝で配信して頂いた。）見送り後、ロケット搭乗前の宣誓式を見学するため、宇宙飛行士の方達を追いかけるようにしてホテル出発し、基地へ向かう。見学会場に入るために、はじめてここで持ち物検査を含む、本格的なセキュリティチェックを受ける。当初は宣誓式をみるだけの予定だったが、ここで突然のサプライズ。



宇宙服に着替えをして最後に親族と対面している部屋を見学することができた。ガラス越しに若田さんに会釈。若田さんも会釈で返してくれた。（菊地さん経由で弊社のツアーは御存知だったは言え、企画者の私は直接の面識は

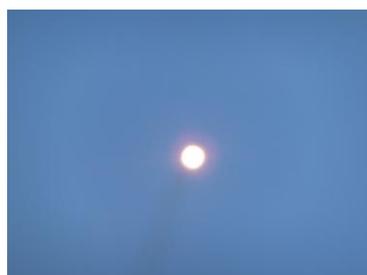


ありません。どこの誰かもわからないのにどうもありがとうございました。) 宣誓式は宇宙服を着て建物から出てきて、ROSCOSMOSの長官に宣誓(挨拶)をしてからあつと言う間にバスに乗って射点へと出発。ここでもしっかりと横断幕



を掲げて最後まで声援を送る。出発後、基地内のホテルで朝食。その後、バイコヌール宇宙基地博物館、ブラン及びガガーリンとコロリョフのコテージを見学。博物館自体も綺麗に整備され、ブランを含め見所たくさんなのだが、残念なことに見学時間が1時間とあまりにも短い。(駆け足で汗だくになりながら写真をとっただけという感じ) 基地内の行動なのでタイムスケジュールが厳格に管理されて致し方ないものか……。今回は要検討だと感じた。博物館見学後、打ち上げ見学ポイント(射点から

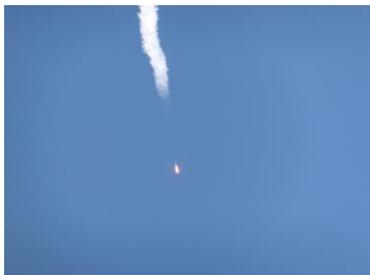
見て南南西に位置する)へ移動。場所取りの心配もとくに必要ないので、打ち上げ30分前というほぼ直前の到着。もう少し早目に到着して「ドキドキ感」を長く味わいたいものだが、ロシアにとっては「日常茶飯事」の打ち上げならではのタイムスケジュールなのだろう。移動途中のバスからも発射台が間近に見える。見学ポイントに降り立った時もこれは近い!と感じた。(1.8 kmと聞いていたのだが、見学ポイントから見て発射台は地形的に若干下がっているの、実質1 km弱程ではないだろうか。) 見学ポイントには屋根付観覧席があるがそこはすでに各国のプレスでいっぱいであったが、観覧席の下にはいくらでも場所があるので特に見学場所には困らない。打ち上げカウントがないので発射時間を気にしながらの見学、そしていよいよ打ち上げ。距離が近い分「コーッ、バリバリ」という音と光が同時に聞こえてきてゆっくりとソ



ユーズロケットの機体が浮かんでくる。距離が近いのですぐに真下からブースターの光を見上げるような感じになる。ゆっくりと東の空に機体を傾けながら上昇。打ち上げ当日は快晴であったため、しばらくすると綺麗なロケット



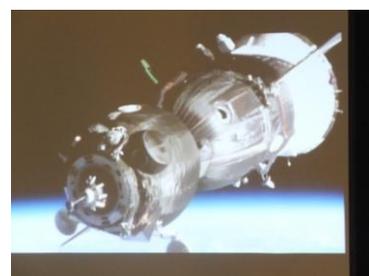
ト雲がみえる。(思わず、映画「ライトスタッフ」のエンディングの絵とビル・コンティ



「Yeager's Triumph」の音楽が目の中の情景とシンクロする。) 打ち上げから、上空約 40 kmの地点でブースター（第一弾ロケット）が切り離される様子はさすがに肉眼では追えず（あとでお客様に撮って頂いたビデオでは確認できた）。光の点がどこまでも続く青空の中に消えていくまで見送り続けた。ロケットの打ち上げはこれほど力強く美しく、そ

して勇気を与えてくれるものなのかとしばし脱力。この瞬間に立ち会うために、ツアーを企画しつづけてきて本当によかったと心から思った。しばらくした後、無事軌道に投入された旨のロシア語のアナウンスが流れ周囲からは拍手。見学ポイントを出発する前、GCTC(星の街)の所長、宇宙通算滞在の世界記録を持つセルゲイ・クリカリョフさん（菊地さんと 90 年当時に一緒に訓練したこともあり、菊地さんのご友人）と一緒に記念撮影。（前回の 2011 年のツアーでも GCTC 訪問の際にご一緒に写真を撮って頂きました。毎回本当にありがとうございます。）メインの打ち上げが終わりしば

しの余韻に浸りながら、基地を後にして市内へ。本来ならここでツアーは終了といった感じだが、今年の春の打ち上げから始まった地球を 4 周回してから ISS へのドッキング（急速ランデブー方式）で打ち上げから 6 時間後（従来は打ち上げから 2 日後のドッキング）のその日の内にドッキングの様子まで見れる。ということで、午後は昼食後市内のドッキング中継会場へ。宇宙飛行士の親族の方達をはじめ NASA、JAXA、ROSCOSMOS の関係者、報道陣が集まる会場で、ドッキングの様子を見学。ドッキングからハッチオープンまでは一時間半あり、その間関係者は会場ロビーでドッキングの成功を祝う懇親会。私達一行はその間の時間を利用して市内の本屋で買い物、ドッキングの時間に合わせ、また会場に戻った。ハッチオープンと共に、オリンピックトーチと共にロシア人宇宙飛行士のチューリン氏が姿を現し、その後、若田さんも元気な様子で ISS 内へ。自分達が座っている後ろの席でライブで行われている若田さんとその親族との交信を、目の前のスクリーンの中継で見るといった感じで興味深い。今日の明け方に目の前にいた人達はその日の夕方には高度 400 km の宇宙空間の ISS にいる…。なんとも言えない不思議な感じがした。



この 4 日目はメインの日でありスケジュール的にもかなりハードであったが、何にも変えられない充実感・達成感が残った 1 日だった。

11/8（金）、バイコヌール滞在5日目、滞在最終日。朝八時にホテルを出発し、JAXA関係者と車列にて空港へ。町の入り口にある、モニュメントの写真撮影をしたいとの希望が多かったがここはカザフ領であるため下車は許されず、お客様の代表者の方がなんとか車内から撮影。空港のターミナルに到着するも、ターミナル自体が小さいこともあるが、NASA、JAXA関係者、報道関係者でごったがえす。帰りのチャーター機では、JAXAの金井飛行士のとなりの席に座れる幸運に恵まれ、いろいろと御話しをさせて頂いた。11時には無事モスクワに到着し、バイコヌールへの訪問は無事終了。



（※ツアー自体はこの翌日、モスクワでの観光がありましたが、今回の報告では割愛させて頂きます。）

ツアータイトルは「打ち上げ見学ツアー」だが、ソユーズロケットのロールアウト、若田飛行士の見送り、打ち上げの瞬間はいわずもがな、ISSへのドッキングまでの一連のプロセスをこれほど「間近」で体感できるのはバイコヌールならではないかと思う。また、宇宙関係の博物館やモニュメントも見学することで、ロシアの宇宙開発の歴史とその背景にも触れることができた。そして、これはサプライズではあったが、JAXA関係者の古川飛行士、星出飛行士、金井飛行士との同宿。本当に「夢」のように過ぎていったバイコヌールでの5日間だった。

多くのひとが一度は行ってみたいと思っている「宇宙」。たとえ、「宇宙」にはいけなくとも、ここバイコヌールにはその「入口」が開いていて、地上のどこよりもより身近に「宇宙」を感じることができる数少ない場所だと感じた旅であった。（了）